

学生から看護師への ホップ! ステップ! を支える教育

国試対策から、学ぶ習慣のつけ方まで

教育の通過点としての国試、最低限の質保証としての国試、立場や見方によって「看護師国家試験」の位置づけはさまざまでも、その合格が看護師となるための必要条件であることに変わりはありません。どの養成所も避けて通ることはできず、それゆえ、国試との向き合い方を考えながら、教育のあり方を考えることになります。

「教員のための国試対策」と題して 2013 年秋に開催された「医学書院看護教員『実力養成』講座」では、「国試対策」をキーワードに看護基礎教育をめぐる幅広い議論が展開されました。その内容は受験を間近に控えた学生を対象にした“対策”に留まらず、出題基準の改定点、国試が受験者に求める能力、入学時からの学生指導、学校の文化醸成にまで及びました。

本特集では 3 名の講師による講座のダイジェストとともに、その指導を受け現在は臨床で働く卒業生からのコメント、講座の参加者の声を紹介します。次の国試対策を改善するヒントを得ていただくと同時に、少し先を見据えて自校の教育のあり方を考える機会にさせていただきたいと思います。